



新春の企画展「印刷の歴史」開催中です。

1月12日より3月16日まで新春の企画展として「印刷」に関わる展示をしています。昔は書物や絵画は一点ものでしたが、印刷によってたくさんの人々が手にできるようになるまでにはたくさんの技術の進歩がありました。学校、職場、そしてお家で、手軽に印刷する方法も時代とともに変わってきたことなど、懐かしい機器もあります。

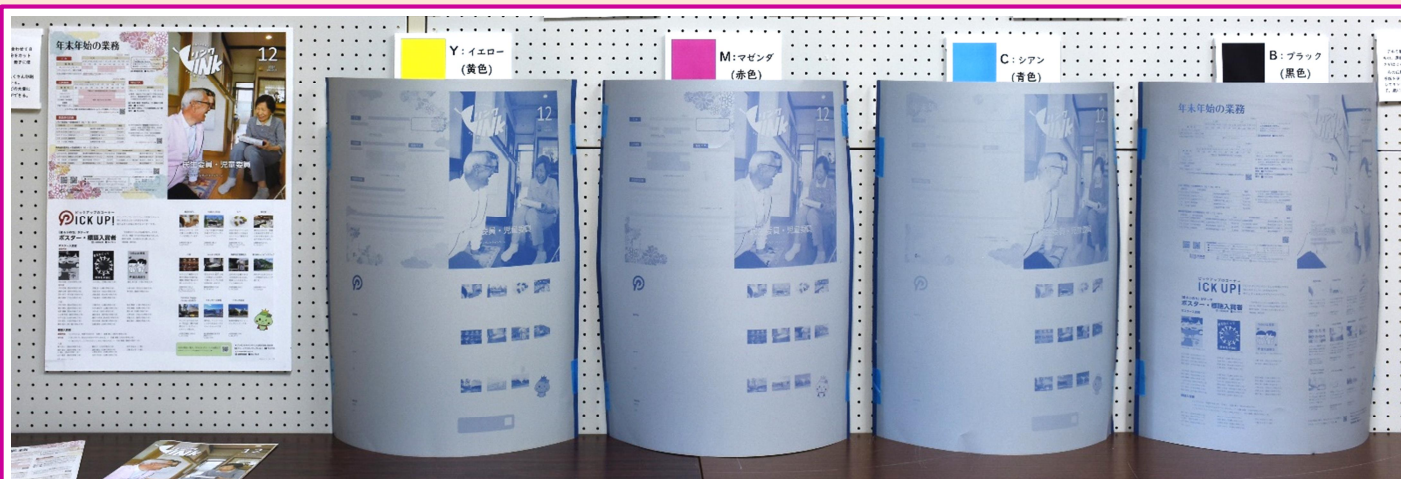


員弁にも「蔦重」みたいな版元がありました



「切込みが鋭い木を彫った版木」

平安時代の「源氏物語」などは、人が書き写した「写本」という形で広まってきました。江戸時代には、庶民の文化が発展していくと、瓦版や黄表紙や名所図会などの挿絵付きの本や浮世絵などの絵画が出回りました。安く大量に印刷するために木の板に字や図柄を彫って凹凸を付けた「木版」が使われました。今回展示している版木は明治時代の市内の版元のものです。



「凹凸のないツルツルの版」 最新の印刷技術の紹介です。毎月ご家庭にお届けしているいなべ市の情報誌「Link リンク」はオフセット印刷という技術です。4色のインクで重ね刷りするのは江戸時代の浮世絵と同じ発想なのですが、印刷の原版が凹凸のないツルツルの板になります。水と油の性質を利用した印刷原版、ぜひ触ってみてください。

